

案件概要書

2026 年 10 月 27 日

1 基本情報

(1) 国名：フィジー共和国（以下、「フィジー」という。）

(2) 事業地域名：スバ首都圏（人口：35 万人）

(3) 案件名：災害リスク管理センター整備計画

(The Project for the Development of the National Disaster Risk Management Center)

(4) 計画概要：首都スバにおいて、災害リスク管理センターの整備を行うことにより、フィジー及び大洋州地域の防災人材の育成及び防災ガバナンスの強化を図り、もって地域全体の災害対応能力の強化、事前防災投資の実現及び「よりよい復興（Build Back Better）」の推進に寄与する。また本計画は、オファー型協力「フィジー及び大洋州地域の防災・早期警戒体制強化」を構成するものである。

2 計画の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

フィジーは、日本と豪州・ニュージーランドを結ぶ縦のシーレーンと、南シナ海から太平洋への横のシーレーンが交わる地域にあり、日本の外交政策である「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」を推進していく観点からも、同国との良好な二国間関係の維持・発展は重要である。

同国は、気候変動の影響により年々大型化するサイクロンや高波等の自然災害による被害が甚大となっており、事前防災、発災対応、復旧・復興のための能力・体制強化は喫緊の課題となっている。対フィジー国別開発協力方針や第 10 回太平洋・島サミット（PALM10）の首脳宣言及び共同行動計画においては、気候変動・災害対策は重点分野と定められており、本計画は当該方針を具体化するものである。

また、本計画はオファー型協力「フィジー及び大洋州地域の防災・早期警戒体制強化」における取組の一つとして位置づけられ、同センターを整備し、大洋州地域における防災ガバナンス及び研修等を通じた人材育成の中核拠点として活用していくことで、フィジー及び大洋州地域の防災分野の取組を後押ししていくことを目的としている。フィジーを含めた大洋州島嶼国からは、防災分野の支援について要請を受けており、本計画を実施する外交的意義は大きい。

(2) フィジーにおける防災セクターの課題及び本計画の位置付け

フィジーを含む大洋州地域は自然災害の常襲地帯に位置し、島嶼国特有の条件も重なり災害脆弱性が高い。フィジーは大洋州地域の防災閣僚級会合において、初代議長国を務め同地域の防災ガバナンスにおいてイニシアティブを発揮するとともに、実務者レベルの地域会合や研修等を継続的に開催するなど、大洋州地域の防災分野の取組において中核的な役割を果たしている。

同国の国家災害リスク管理局（National Disaster Risk Management Office。以下、

「NDRMO」という。)は、大洋州地域の事前防災・発災対応・災害復興の改善を推進するため、地域研修等を通じて同地域全体の防災能力強化及びネットワーク形成を支えるハブとしての役割が期待されている。

また、2024年の防災法改正(National Disaster Risk Management Act 2024)により、NDRMOはフィジーの国家緊急オペレーションセンターとして、発災対応における政府内及び国際援助の調整や復興計画の策定・実施など重要な所掌を担当することとなり、フィジーの国家機能を維持するために重要な役割を果たすことが期待されている。

その一方で、現在、NDRMOは他省庁の庁舎のワンフロアの半分を間借りしている状態であり、執務スペース不足に加え、発災時に関係省庁関係者が参集できる会議室も持ち合わせていない状況である。また、間借りしている庁舎では雨漏りが発生しており、そのためNDRMO機材の一部が故障するなど、国家緊急オペレーションセンターとしての役割を果たすことが困難な状況にある。

また、このような制約があるところ、防災に関する大洋州地域の実務者会合や広域研修等の実施に関しても、その都度、ホテル等の外部会場を借り上げて実施しているところ、効果的な広域研修を実施することが困難な状況にある。

このような背景を踏まえ、「災害リスク管理センター整備計画」(以下、「本計画」という。)は、災害リスク管理センターの整備を通じて、フィジー及び大洋州地域の防災ガバナンス強化と防災人材育成を図り、同地域及び同国の災害対応能力の向上に資する優先度の高い事業である。

3 計画概要

* 協力準備調査の結果、変更される可能性あり。

(1) 計画内容

ア 施設・機材：災害リスク管理センター施設の整備(RC造地上2~3階建1棟、延床面積：約700~900m²を想定)、防災情報統合管理システム(大型ディスプレイ、通信設備等)、予備インフラ機材(バックアップ発電機、貯水施設等)、研修・啓発機材(展示資機材等)

イ コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネント：詳細設計、調達・施工監理。ソフトコンポーネントとして、災害情報管理・通信機材の運用、施設全般の運用維持管理のための技術指導等。

(2) 期待される開発効果

- ・ 緊急オペレーションセンターを活用した演習回数(回/年)が増加する。(基準値：0→目標値：4)
- ・ 被害状況報告書発行までの時間(時間)が短縮する。(基準値：72→目標値：48)
- ・ 防災関係研修・会合の実施数(回/年)が増加する。(基準値：12→目標値：20)
- ・ 防災関係研修の受講者数(人/年)が増加する。(基準値：285→目標値：500)
- ・ 防災啓発センターの来館者数(人/年)が増加する。(基準値：0→目標値：10,000)

(3) 被援助国側実施機関：国家災害リスク管理局(National Disaster Risk

Management Office : NDRMO)

(4) 他ドナーの動向・ドナー連携の可能性

・NDRMO には、日本の専門家に加え、ニュージーランド外務貿易省から災害対応の専門家、オーストラリア外務貿易省から災害対応のための研修や標準手順書の策定、災害対応の他国との広域連携に関する専門家が派遣されている。

(5) 実施体制、運営・維持管理体制

被援助国における村落離島開発・災害管理省 (Ministry of Rural and Maritime Development and Disaster Management) を監督機関とし、NDRMO が運営／維持管理を担う。NDRMO は現在でも国家防災機関として発災対応を含む業務を担っているが、施設全体の運用・維持管理体制及び予算の詳細については協力準備調査で確認する。

(6) その他特記事項

・環境社会配慮カテゴリー分類：B

・ジェンダー分類：GI (ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件)

・本邦技術活用の可能性：防災センター及び啓発施設は日本に数多くの先例があり、気象情報、河川情報などの防災情報を自動的に招集できるシステムや一般の来訪者が防災について体験しつつ意識を高められる展示資機材等において日本の知見や技術の活用を検討する。

・フィジーの所得水準は高いものの、フィジーを含む大洋州地域は、気候変動に脆弱な島嶼国であり、毎年のように大雨による洪水やサイクロンによる暴風・高潮の被害が発生しており、人間の安全保障の観点から、本計画を通じた、個人の尊厳、生命、生活に対する脅威への対応が必要(「人道上のニーズ」)。また、気候変動に起因する気象災害はフィジーのみならず大洋州地域全体にも影響を与えるものであり、フィジーにて大洋州地域における災害対策の拠点となる施設を整備する本計画は、大洋州地域にも波及する効果が期待される(「広域性」)。

さらに、本計画は、フィジー政府ハイレベルから要請がなされており、また、PALM10 首脳宣言及び共同行動計画における重点協力分野「気候変動と災害」に合致している(「外交的観点」)。防災分野は日本成長戦略 17 分野の一つであり、数多くの災害を経験し、防災に関する知見を豊富に蓄えてきた日本が、世界の防災を主導していく立場にある。フィジーにおいても長年にわたり防災分野の専門家派遣等の技術協力を継続しており、また、同国の開発課題・開発政策及び我が国の開発協力方針に合致することから、無償資金協力で対応することが妥当と判断。

4 本計画に適用する類似案件の教訓

平成 11 年パラオ共和国向け無償資金協力「国際珊瑚礁センター建設計画」(評価年度：2007 年)の事後評価等において、同センターの組織運営能力の強化のため JICA 専門家が派遣され、無償資金協力と技術協力との連携が更なる効果の発現に繋がったことが教訓として挙げられている。本計画においても、NDRMO に配属されている JICA 専門家の知見を活用しつつ、実施予定の技術協力プロジェクトとの連携につい

て、協力準備調査を通じて検討する。

以 上

[別添資料] 地図 フィジー「災害リスク管理センター整備計画」

[別添資料] 写真 フィジー「災害リスク管理センター整備計画」

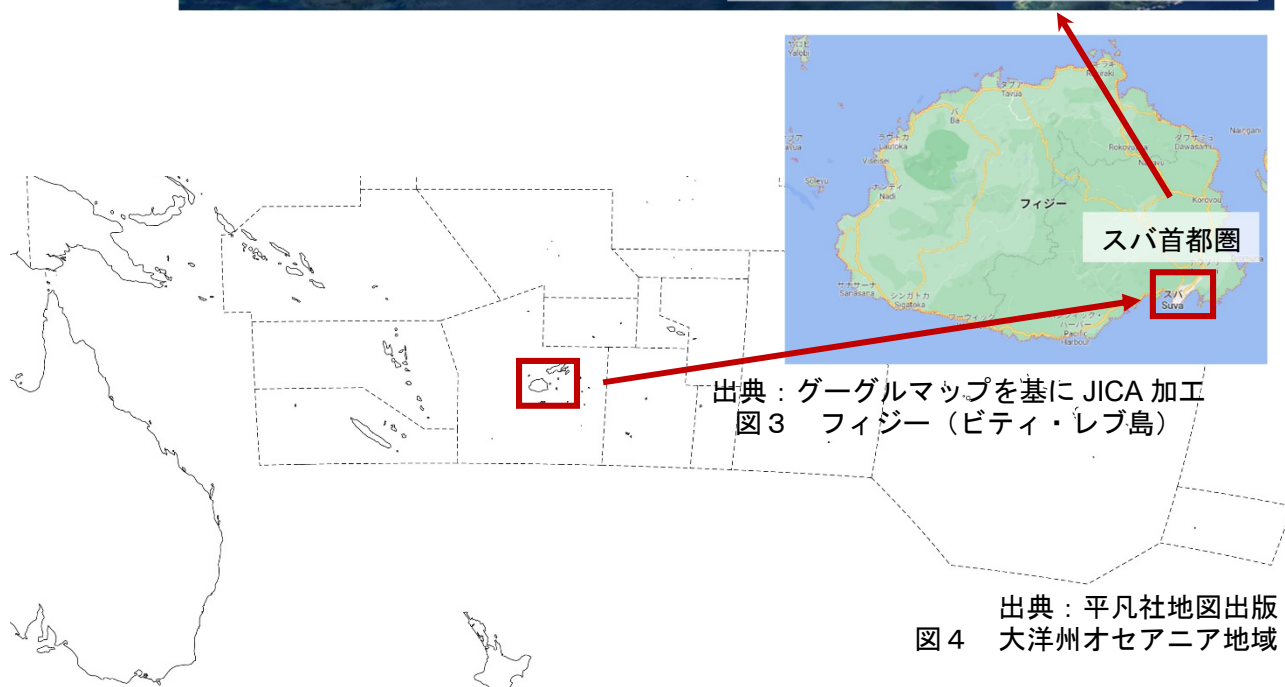
[別添資料] 地図 フィジー「災害リスク管理センター整備計画」



出典：グーグルアースを基に JICA 加工
図 1 事業予定地



出典：グーグルアースを基に JICA 加工
図 2 スバ首都圏鳥瞰図

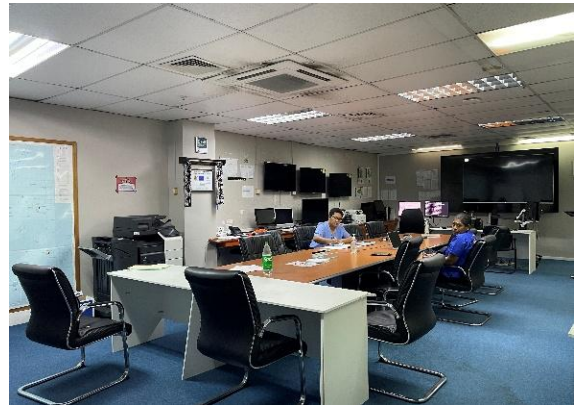


出典：グーグルマップを基に JICA 加工
図 3 フィジー（ビティ・レブ島）

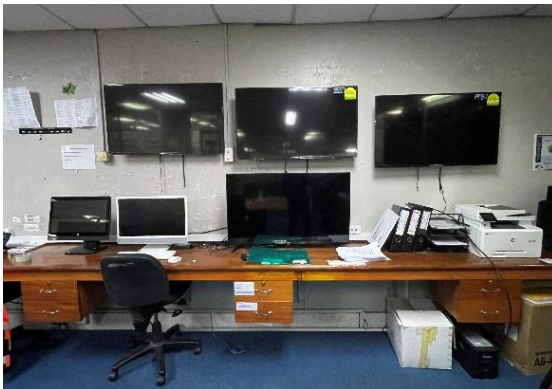
出典：平凡社地図出版
図 4 大洋州オセアニア地域

〔別添資料〕 写真 フィジー「災害リスク管理センター整備計画」

NDRMO 庁舎（別庁舎の 1 フロアの一部）唯一の会議室と兼用の発災対応センター



発災対応センターのモニター等機材



天井の崩落・漏水・空調不調のある室内



前面道路中央から建設予定地を望む



設置が想定される敷地

